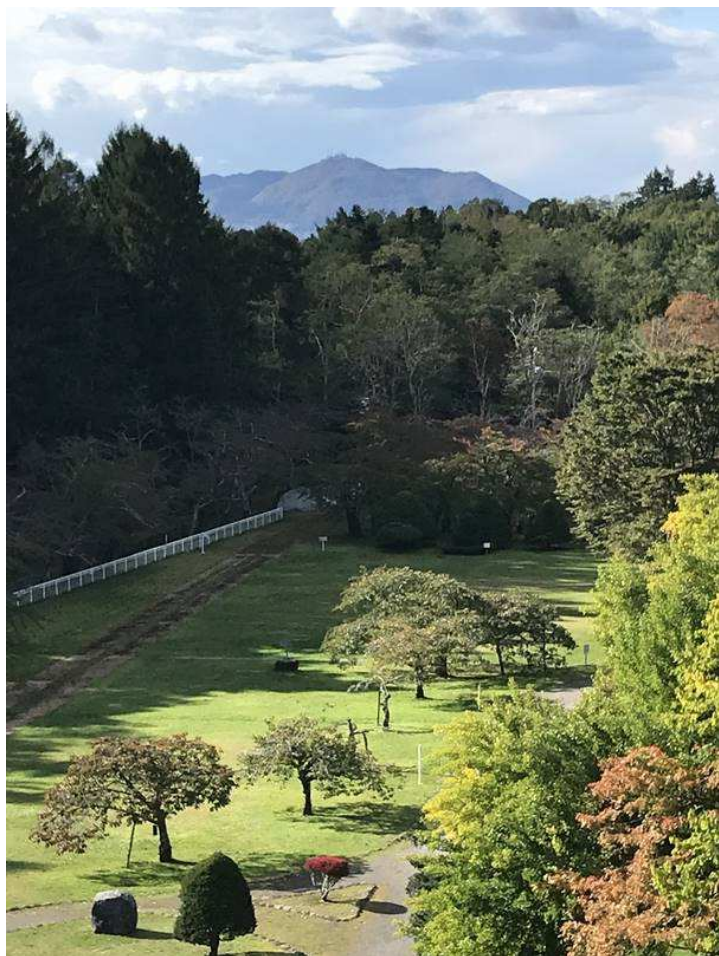


## 市民の水がめ、赤川水源地より

子どもの時から、ここからの眺めが大好きで、五稜郭の裏から歩いて来てしまった。木は伸びたが、期待通りの眺望。

赤川水源地（笹流ダム）は、函館の疫病流行防止のため、全国に先駆けてできた、水道専用のダム。

40年ほど前に、大改修して今の姿になったが、元は、板を斜めにして柱で支えたような独特な構造をしていた。



堰堤の上から木の間越しに。広場の紅葉が進む。函館山のとっぺんから、目を凝らすと、このダムを見つけることができる。

笹流ダムは、亀田川の支流笹流川をせき止め、大正12年(1923)に完成した水道専用のバットレスダム(扶壁式中空鉄筋コンクリートダム)です。

この形式のダムとしては日本で初めて建設されたもので、小野基樹氏(後の東京都水道局長)の設計監督によるものです。

このダムに貯えられた水は、赤川低区浄水場へ送られ飲み水となり市民に利用されています。

このレリーフに、ダム建設の由来が

## 帰路、空港にて

羽田行の搭乗前に、ガラス越しに。飛行機は、行きも帰りも、満席。



搭乗したのは、JAL です

